大豆の直接取引を支援する「Soya試算シート」

生産費、大豆に関する補助金等を簡便に計算し、メーカーと生産者が取引価格の交渉を容易に進めることができる「Soya試算シート」を開発しました。生産者と直接取引を希望するメーカーと生産者の、スムーズな連携かつ明朗な直接取引をサポートするツールです。どなたでもP14のウェブサイトから入手できます。

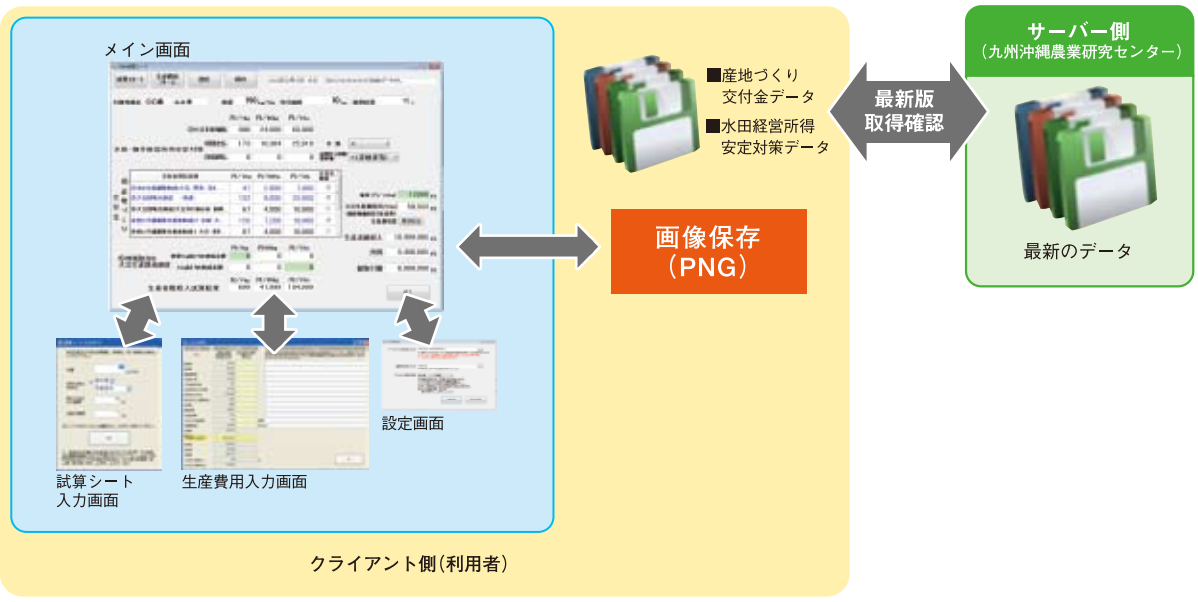
九州沖縄農業研究センター
異業種連携研究チーム
主任研究員 博士（農学）
笹原 和哉

1.特徴：取引を円滑に、わかりやすくできます

「Soya試算シート」（以下、本ツール）は大豆生産者と加工業者の直接取引を想定した価格決定を支援するツール（Windowsパソコン用ソフトウェア）です。本ツールを利用すると各種の交付金を含んだ生産者の粗収入と大豆販売価格が同時にわかります。その機能を参考にすれば、生産者と加工業者が直接取引を円滑に進めることができます。つまり、加工業者の提案する購入価格と生産者が手にするであろう粗収入に双方が納得すれば取引が成立することになります。また、双方の希望に開きがある場合、本ツールを応用して価格を調整することが可能です。

2.活用事例

実際に熊本市にある豆腐加工業者と生産者が本ツールを活用し直接取引を行っています。さらに、大分県にて江戸時代からの特産物と伝えられる在来種「小判大豆」を継承している生産者と、豆腐・醤油メーカーが本ツールを使い直接取引にて商品化している事例があります。また、交付金の対象とならない黒大豆品種「クロダマル」でも大分県、生産者、卸売業者そして豆菓子製造業者が本ツールを活用しながら生産を拡大し、生産量25tに至っています。このように本ツールは産地形成に活用されています。



Soya試算シートの使い方

インストール

最初にダウンロードしたZIPファイルを解凍して解凍フォルダ内の をクリックして、インストールを行います。デスクトップ上に「Soya試算シート」のショートカットができます。

step1

デスクトップ上のショートカットをクリックして「Soya試算シート」を起動します。step1では、地域名、大豆の収量、作付面積という最も基礎となるデータを入力し産地においてどのような交付金の制度、使途があるのかを摘出し表示します。メイン画面左上の「試算スタート」のボタンをクリックして、入力を始めます。

「Soya試算シート」起動直後の様子

「試算スタート」をクリックすると現れるウインドウの図

〈収量〉
10aあたり大豆の収量について数字を入力して下さい。

〈市町村名等の地域名指定〉
生産地の県、市町村等の地域名を選択して下さい。地域水田農業協議会単位で交付されるため、現在の市町村名ではなく、旧地域名を入れる場合があります。

〈取引大豆の作付面積〉
取引する大豆や比較参照する際の仮の大豆の作付面積を入力して下さい。
OKボタンをクリックすると、地域の情報が表示されたメイン画面に戻ります。

地域の情報が表示されたメイン画面

地域の情報が表示された画面は図のようになっています。生産者が受け取る交付金額(1kg、60kg、10aあたり)の選択肢が表示されます。ここでは収量を180kg、取引大豆の作付面積を10haとしています。

step2

step2は生産者がこの取引の場合に入手できる交付金額を把握するプロセスです。

①本体価格
この段階では、まだふれません。

②固定払
年数の欄で、ドロップダウンリストから過去実績の状態について適切なものを選んでください。

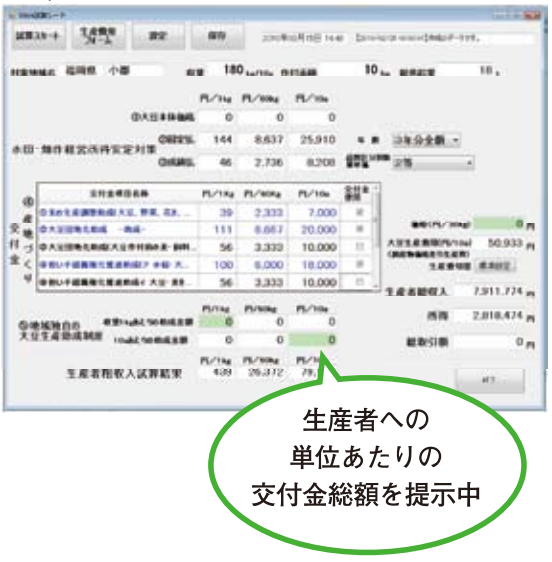
③成績払
品質区分別数量単価の欄で、ドロップダウンリストから、農産物検査にて検査される場合は等級を、そうでない場合は×を選びます。

④産地づくり交付金
交付金使用のチェックボックスをクリックすると青色の 文字になり、その交付金がもらえる状態であることを指しています。

⑤地域独自の大豆生産助成制度
該当地域の場合は、緑色のテキストボックス に1kgあたり、または10aあたりの金額（数字のみ）を入力します。

step2の入力は「生産者粗収入試算結果」を確認しながら行ってください。step2が済んだところで、大豆を作ることを前提にして、大豆本体価格がゼロ円の場合における、生産者の粗利益が表示されていることになります。

step2 入力後の状態

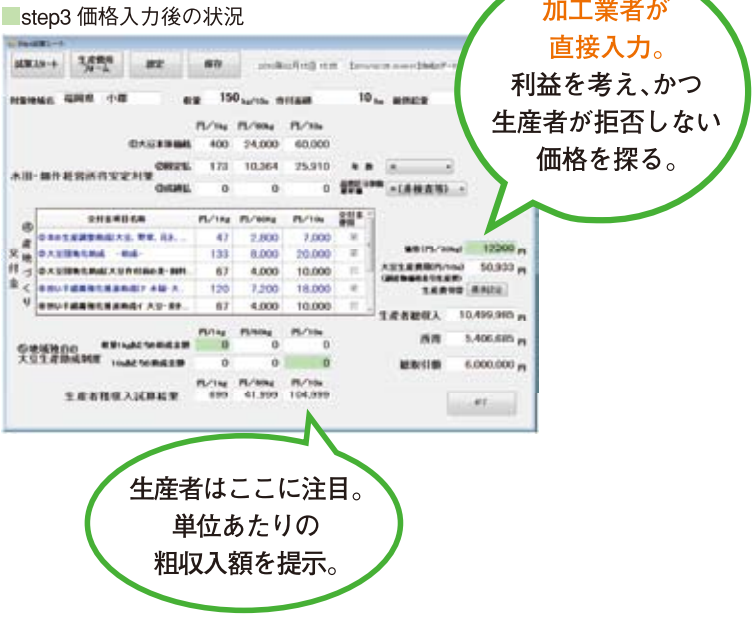


step3

次は大豆本体価格を入力して取引を行う段階になります。本体価格の入力は、右側中央の緑色の枠内の「価格（円／30kg）」のところに加工業者側が30kgあたりの価格を入力します。この金額は実際に生産者に渡る金額にして下さい。その下にこの場合の「生産者総収入」、そこから生産費用を差し引いた「所得」、加工業者が支払う「総取引額」が示されます。

取引においてはここから色々価格を変える作業を繰り返し、双方納得できる価格を探って下さい。価格の折り合いを付けるおすすめの方法が一つあります。その地域の奨励品種の大豆を作ることを想定していったんstep1の段階から始めて生産者の粗収入、所得を把握します。そのうえで、再び取引したい大豆の場合の粗収入を計算します。

step3 価格入力後の状況



その他の機能

●「Soya試算シート」では、10aあたりの大豆の生産費用について、平成15年産の都府県平均の生産費用を「標準設定」として、始めから表示しています。「自己設定」を行いたい場合は、「生産費用フォーム」のボタンをクリックして、種苗費をはじめとした10aあたりの各種費用を薄黄色のセルに 入力してください。なお、「自己設定」の生産費は、初期設定は0円になってい ます。「標準設定」と「自己設定」、どちらの設定にするかは、「生産費切替」 のボタンで切り替えることが出来ます。

●「設定」のボタンでは、データの保存先フォルダを改めるなどの設定ができま す。「Soya初期値設定」というウインドウが立ち上がり、保存先のフォルダなどを決めることができます。

●「保存」のボタンでは、試算結果など表示されている画面を、pngという拡張 子をもった形式で保存することが出来ます。

■生産費用フォーム

■「設定」ボタンを押すと現れるウインドウの図

以上でひととおり「Soya試算シート」の操作方法について説明しました。

補足

Soya試算シートを使用するには、Windows XP(SP3)/Vistaが動作できる (.NETFramework 2.0以降がインストールされている)環境が必要です。Windows XPをご使用の場合は、必ずSP3にアップデートを行って下さい。本ツールは無料です。作者(笹原和哉)はこのツールを使用したことによって生じた損害に関して一切の責任を負いません。各自の責任においてご使用ください。また、金銭的に利益が発生する配布は禁止します。試算シートは契約成立を手助けする意図を持つものですが、契約書を作成することを意図して作ったものではありません。お互いの状況や都合がわからない加工業者と生産者が、理解し合い、取引をまとめるまでのたたき台などになる機能を果たすものです。シートの結果自体は契約書になれないことをご理解の上使用してください。

「Soya試算シート」は以下のウエブサイトからダウンロードできます

http://konarc.naro.affrc.go.jp/team/Collaboration/soya/